

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	コンピュータリテラシー		
英文授業科目名	Computer Literacy		
開講年度	2004年度	開講年次	1年次
開講学期	1学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-国際科目-専門基礎科目		
開講学科・専攻	知能機械工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	村尾 裕一		
居室	西9-801		

公開E-Mail	授業関連Webページ
murao@cs.uec.ac.jp	<a href="http://www.edu.cc.uec.ac.jp/~hmurao_j/lecture/CL-MH">http://www.edu.cc.uec.ac.jp/~hmurao_j/lecture/CL-MH</a>

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>(a) 主題： 情報化社会における必須のツールとして位置づけられているコンピュータを、大学における学習，研究の道具として使いこなすために必要な知識について、実際にコンピュータを操作しながら与えられた課題を解決していくことを通して学ぶ。</p> <p>(b) 達成目標： コンピュータシステムの基本事項を理解し，UNIXシステムとウィンドウシステムの利用法及びテキストエディタや清書システムの使用法を習熟する。これにより，情報ネットワーク社会において，情報の生成・共有・伝達のためにコンピュータやネットワークを積極的に活用できるようになる。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
なし

<b>【教科書等】</b>
<p>教科書： 渡辺成良・若月光夫・織田健 / 共著</p>

『UNIX コンピュータリテラシー』（共立出版）

【授業内容とその進め方】

以下の回数は各週の講義に対応するものではなく、講義進行の目安である。  
毎回、演習教室の端末を使って演習を行います。演習は、主として、用意したWWW（World Wide Web）専用ページの内容に沿って行います。数回、課題を出す予定です。レポートとしてまとめ、期限までに提出してください。

第1?2回：コンピュータシステムへのログイン・ログアウトの方法とUNIXシステムの最低限の利用法を覚え、また、パスワード管理の重要性を理解する。

キーボード・マウスとウィンドウシステムの基本操作を学ぶ。

第3?4回：高機能テキストエディタ emacs の基本概念を理解し、操作法を学ぶ。

第5?6回：電子メールに関する基本概念を理解し、操作法を習熟する。

第7?8回：UNIXにおけるコマンドとファイルを理解し、ファイルの操作法と基本コマンドの使い方を覚える。

第9?11回：インターネットの利用における基本事項を理解し、ブラウザの利用法・情報の検索と蒐集への活用法を学ぶ。情報発信の方法を学ぶ。

第12?14回：清書システム LaTeX の使用法を学ぶ。

第15回：まとめを行う。

< 講義に関係する注意 >

欠席・遅刻をしないこと。講義はスケジュールにしたがって進められるので、欠席・遅刻すると取り残されます。やむを得ない事情により欠席・遅刻をする場合は、事前に申し出て指示をあおぐこと。レポート提出等の締め切りは厳守すること。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 成績評価方法：試験は行いません。成績は出席状況、課題の提出状況、課題の内容をみて、総合的に判定します。

(b) 評価基準：以下の到達レベルをもって合格の最低基準とする。

(1) 課題に取り組むために必要な、キーボード・マウスとウィンドウシステム等の基本操作をUNIXシステム上で行うことができる。

(2) UNIXシステム上で電子メールの操作ができる。

(3) 情報をWEBページにまとめて発信したり、清書システムを用いて文章をまとめることができる。

【オフィスアワー：授業相談】

開講学科と担当教官の居室が離れているので特に設けないが、質問等は適宜メールで受け付ける。

【学生へのメッセージ】

目的を持って使いつづけることが、上達への早道です。苦手意識を持たずに興味を持って課題に取り組んでください。

既に Windows や Mac といった与えられた計算機環境に慣れ親しんでいる人には UNIX は使いづらいと感じられるかもしれません。UNIX はプログラミングを初めとして、新しいものを自力で作る、新しい考えを創造していくための環境および道具です。十分に慣れ親しみましょう。

【その他】